

第77号

会報

一般社団法人 函館文化会

〒040-0011 函館市本町33番2号
(社会福祉法人 函館厚生院内)

電話・FAX (0138) 54-8987

E-mail bunkakai@host.or.jp

平成27年度定時総会を開催 ～事業報告・決算を承認～

一般社団法人函館文化会では、平成27年度定時総会を5月26日午後1時30分から五島軒本店で、会員総数90名のうち73名が出席（委任状出席を含む）して開催され、提出された議案は全て原案のとおり承認し、終了いたしました。定期総会の内容について、お知らせいたします。

定時総会は安島進会長の挨拶の後、定款の定めにより会長が議長となり開会。今総会に提案された議案は

議案第1号 平成26年度事業報告について

議案第2号 平成26年度収支決算について

の2議案で、議案第1号と議案第2号は関連があることから事務局から一括して説明、次いで監事から5月22日実施した監査について「経理については正確かつ適正に執行されており、また、事業も事業計画に基づき適正に行われていると認める」との監査結果の報告があり、審議の結果、いずれの議案も満場一致で承認されました。

なお、承認されました平成26年度事業報告書、収支計算書は別掲（15ページ）のとおりです。

また、平成27年度事業計画、収支予算を審議する平成26年度臨時総会は、3月18日ロワジュールホテル函館に於いて会員76名の出席（委任状出席を含む）のもと開催、平成27年度事業計画をはじめ提案された全ての議案を満場一致で原案のとおり可決されております。（別掲16ページ参照）



函館文化会 会報 第77号 目次

平成27年度定時総会を開催 ～事業報告・決算を承認～	1	平成26年神山茂奨励賞 中尾仁彦氏へ贈呈	8
「昭和20年」の私 函館文化会会長 安島 進	2	寄稿・神山茂賞を受賞して 中尾 仁彦	8
函館文化会講演会	3	卓 話	10
平成26年度講演会・講演録		第10回卓話 人間の心理とトリック	10
「新島裏と箱館」		～人はなぜ騙されるのか～ 阿部 二郎	10
新島裏・函館パストの会 代表 千代 肇	4	第11回卓話 願乗寺川物語 木村 裕俊	13
会員の募集・助成制度について	7	平成26年度事業報告・収支決算	15
		函館文化会会員名簿・役員名簿	18

回想記

「昭和20年」の私

～ 終戦前後と学徒の暮らし ～

一般社団法人 函館文化会 会長 安島 進



17歳の4月、師範学校の2年生になってまもなく「決戦教育措置要項」に基づく学徒動員令により、学校は休校となり食糧増産（援農）のため、5月中旬約80名の仲間と胆振の鶴川町へ出動。初めての土地であった。農家に1～2名ずつ配属された。米作地で稲の苗作りから～田耕し～代かき～田植え～稲刈り～脱穀などひと通りの作業を手懸けた。今日とは異なり、全てが道具を使っただけの手作業、農耕馬の利用であった。

農家の主人の手ほどきを受けながら、一連の作業をこなし感謝をされた。食糧難の最たる年であったが、幸い不自由なく過ごすことができ、良く働いたこともあって鍛えられた身体になった。ただ、夕食後の自学自習は、疲れと眠気、更にはランプの灯油節約のため配給の原蠟を灯しての不自由な毎夜であった。

そんな日々の繰り返しの中、戦況は一段と悪化し7月14日、15日と北海道も空襲に曝され、道内各地に被害が出た。室蘭の中島町がアメリカ海軍の艦砲射撃に遭っている爆裂音が、鶴川でも遠雷の如くに聞こえた。函館や青森も空襲で市街地が火災になったり、青函連絡船が沈められた話を翌日になって聞いた。

14日午後3時過ぎ、鶴川の上空にもアメリカの艦載機「グラマン」が飛来した。後で判ったが道内の主要な都市を襲っての帰りで、我々の頭上を海岸線に沿って南下し、襟裳岬の沖合に待機している空母に帰艦する途中のことであった。

納屋の陰からグラマンを見上げていたが、ゴーグルをかけた搭乗員のアメリカ兵が見えるほどの低空で通り過ぎ、日高線の鉄橋目がけてロケット弾を発射して飛び去った。

敵機が去った後、農家の主婦は「日本は負けるんじゃないかい。」と言った。私は一瞬、言葉に詰まったが「そんなこと言うんじゃない。」と打ち消したものの、不安はあった。日本の迎撃機は勿論、対空砲火の一発の応射もなかった。後で判ったが既にそのような戦力はなかったとのこと。

8月10日から1週間、お盆休みがとれた。内緒でもらった米をみやげに母の避難先である札幌の伯父宅に出かけた。2～3日して函館の母校（寄宿舍）に向かうべく帰り支度をしていた時、伯父から「広島や長崎に投下された新型爆弾は火傷が酷いそうだ。もしもの時に持っていきなさい。」と言ってクスリ瓶をくれた。レッテルには「キンカン」と書いてあった。

寄宿舍には8月14日に戻ったが、偶々15日朝、正午に玉音放送があることを知り、教官室前廊下のラジオで、残留の生徒や教官と共に終戦の詔勅を聞いた。その場での指示は特になかったが、私は急ぎ動員先の鶴川に帰省した。

8月20日頃であった。全員集会の場で8月31日をもって動員は解除となるが、食糧難でもあり学校は休校中とのこと。私は年末まで農家を手伝ってから帰省した。

卒業後の昭和26～27年、法政大学の通信教育で学んだ。学生は真夏の6週間をスクーリングのため各地から上京し、教授直々の講義を皆熱心に聞いた。その学びの姿勢は大内総長からも賛辞をいただいた。お互い慣れ親しむにつれて出身地や入学動機も語った。旧制の高等学校や専門学校、大学での学業半ばで兵役に服していた学生も多かった。

● ● ● 平成26年度函館文化会講演会 ● ● ●

『新島襄と箱館』を演題に開催されました



函館文化会では、平成26年10月18日(土)函館市中央図書館視聴覚ホールにおいて「函館文化会講演会」を開催いたしました。本講演会は、文化振興事業の一環として函館市中央図書館との共催で毎年行われているもので、この度は新島襄・パトスの会代表 千代 肇氏を招き「新島襄と箱館」と題し行われました。

千代氏は講演で、幕末の我が国を取り巻く海外の情勢と箱館の状況を説明しながら、新島襄が江戸神田に生まれ脱国を決意して箱館に来るまでの生い立ちや、また、当時の箱館での生活を「函楯紀行」に事細かく記述していた内容を新島襄の気持ちを推察しながら解説し、最後

に日本の教育に先鞭をつけた原点が函館にあることを強調するなど、約1時間半の講演でした。

なお、今回の千代氏の講演内容について、要約されたものになりますが本会報に掲載（4ページ）させていただきました。今一度講演会当時を思い起こし、ご一読いただければと存じます。

平成27年度「函館文化会講演会」を開催します

今年度の「函館文化会講演会」は函館市中央図書館・北海道立函館美術館との共催で次のとおり開催いたします。今回は北海道立函館美術館 主任学芸員 大下 智一氏をお招きし、「開港地函館に見る芸術・文化～かつての函館はアートの最先端だった～」と題しての講演です。

ご承知のとおり函館は、日米和親条約により我が国最初の貿易港として開港、西欧各国の貿易船が入港するようになり同時に西洋文化も渡来するようになりました。函館に伝わった写真術、洋画に始まり、ハリストス正教会とイコン、明治・大正期の建築物など、国際色豊かだった幕末から戦前期にかけての函館の芸術・文化を画像を用いながら解説していただき、当時の函館を知ることができるものと期待をしているところでもあります。

会員皆さんはもとより、市民の方々にもお声がけをいただき、多数聴講くださいますようお願いいたします。

●開催日時 平成27年10月17日(土) 午後1時30分開演(午後1時開場)

●会場 函館市中央図書館 視聴覚ホール (函館市五稜郭町26-1)

※事前の申し込みは不要です。直接会場にお越し下さい。

なお、中央図書館、保健センター駐車場を利用できますが、混み合うことが予想されますので、公共交通機関でのご来館にご協力下さい。

●演題 「開港地函館に見る芸術・文化～かつての函館はアートの最先端だった～」

●講師 北海道立函館美術館 主任学芸員 大下 智一氏

新島襄と箱館

新島襄・パトスの会 代表 千代 肇



アメリカ東艦隊ペリー提督が箱館に入港して、開港してからおよそ10年もすると、各国の外国人が居住するようになり、箱館奉行は対応に追われた。開港にあたって西欧の学術研究と教育普及のため安政3年（1856）諸術調所を創設し、蘭学者の武田斐三郎を教授役とした。場所は奉行所に近い基坂の上で斐三郎の役宅の隣家を買って増築した。奉行は、武田斐三郎を箱館表に勤めさせ、渡来の外国人から兵器の製造、土塁砲台の築造などの筆授、器物製造法、諸金分析法などを研究して蝦夷地開拓と警護を目的とした学問所であった。また、船も性能の高い洋式船が必要であり、その建造につとめていた。外国人の居住について、管理の必要から築島を作り外国人居留地としていた。

このような時に脱国して密航する事件が起こった。それが新島襄の脱国である。

新島襄とは帰国して明治8年（1876）1月に父に宛てた手紙からの名で、当時は幼名であった七五三太（しめた）が本名で、密航中は上海に入港して米船ワイルド・ロウヴァー号のH・S・ティラー船長に紹介されてボストンに入港するが、その時専属のボーイとなり、ジョーの愛称で呼ばれ、ワイルド・ロウヴァー号の船主であるアルフィユース・ハーディ夫妻の好意で学校に通っていた頃は、ジョセフ・ハーディ・ニイジマであった。父への手紙には“襄は、ジョセ

フの略なり”とあり、以後は自らを“襄”の名を用いていた。

新島七五三太は、天保14年（1843）1月14日に江戸神田の安中藩邸内で生まれた。父は民治、母はとみと4人の姉がいて、男子がいない新島家に男の子が生まれ祖父の辨治が喜び「しめた」と名付けたともいわれている。祖父の代から板倉家につかえた家柄で、七五三太は安中藩の学問所に入り、添川廉斎について漢籍の学習を始め、10歳のとき剣術や馬術の稽古を始めた。優秀なため13歳になると藩主板倉勝明の命で田島順輔について蘭学を始める。翌年元服して諱は敬幹。藩の祐筆補助役を命ぜられるが、蘭学が好きで夢中になり夜を明かす日もあった。板倉氏は七五三太を見て、江戸留守居役の日記を書く係に任命するが、書くことのない暇な時は、さぼって屋敷を抜け出してまで蘭学にふけたといわれる。それがお怒りに触れることもあった。17歳になると藩主の護衛役となり、幕府の軍艦教授所に通って数学・航海術を学ぶが江戸湾内のオランダ軍艦を見て、その偉容さに驚く。その印象が強く残るが眼病のため軍艦教授所をやめて更に甲賀源吾の洋学塾で学び一層、西欧の文化に目覚めてゆく。蘭学から洋学をはじめて和訳の「ロビンソン漂流記」を読んで感動し、漢記のアメリカに関する書物や聖書の抜粋を読んでキリストや大統領による政治や物の考え方を知り、藩政に批判的な考え方をするようになる。

備中松山藩で購入した洋式船「快風丸」に乗船でき、備中玉島に向かい、翌年江戸に帰るが、このとき既に箱館に行く決意をしていたようである。元治元年（1864）3月に快風丸が箱館を経由して樺太などを探検するという情報があると、すぐに藩に書類を提出して両親から資金を得ることになった。武田斐三郎の塾では航海学と兵学を学びたいとの理由をしたためたのである。

品川出港の3月12日から4月21日の箱館入港まで新島は細かな日誌「函楯紀行」を残している。3月7日から5月22日までの生活記録といえるが、この「函楯紀行」は5月



「箱館脱出之記」に描かれた扮装図（侍姿は塩田虎尾）

22日で終わっている。ロシア正教司祭ニコライとロシア領事館で過ごした時期であるが、知りたいのは新島が脱国する6月14日までのことである。

新島は、箱館に上陸すると築島近くの讃岐屋英三郎の家を宿とするが、物価が高く江戸の2倍から5倍で鰹節1本が江戸で100文ほどの価格が500文にもなり、また、この地の風俗もはなはだ悪いという。新島が、武田塾を訪ねるが武田斐三郎は江戸開成所教授として招かれ不在であったので、塾頭の長岡藩士菅沼精一郎を料理店に招き、身の振り方を相談した。西洋人の家に貧客として住み込みたいと話すと、菅沼は知人であるロシア領事館付ニコライを紹介する。ニコライとは、文久元年（1861）7月「ゴローニンの日本捕虜実記」を読んで日本に興味を持ち進んで来日し、後に東京のニコライ堂を開いたギリシャ正教の大主教である。着任した彼は、日本を知るため日本語とその歴史を学ぶため優れた学者を必要としていた。それまで、医業で私塾を開いていた木村件斎を師としていたが、大館に帰り困っていた。そこに菅沼からの話があって新島が招かれることとなった。ニコライから領事館の一室である10帖ほどの部屋が与えられ“のみよけの如き高き床と大いなる読書机”を貸してくれたと述べている。

ロシア領事館は現在のハリストス正教会の場所にあり、東隣にロシア病院があった。新島の部屋はニコライと同じ建物の中にあった。新島は、古事記を読み聞かせ、日本語を教えたが、ニコライからも多くのことを学んでいる。英語も新島からの希望でロシア軍司官ピレルーヒンから学ぶようになり、眼の治療も医師ゼレンスキーから受けるようになった。ロシア病院は無料で治療をして貧しい者にも差別がなく、その待遇と治療のあり方に驚き「函楯紀行」に

も書いているので引用しておきたい。

「図のごとく露国の立て置きし病院は医者、診療所一カ所。病人部屋十二、露の士官及びマドロス部屋各一つ、内によき花園ありて病人をして時々逍遙なさん。さてこの病院に入らんには沖之口役所へその趣を届け出許可の上入院いたす。由あれば近来は直ちに病院に行くことができる」

このロシア病院は、幕末の箱館医学所兼病院の魁となった。

一ヵ月もすると新島はニコライとの信頼を深め脱国の話を持ち出した。新島の話に理解を深めたが、ニコライは強く反対した。領事館で写真を進められ、それが同志社に納められているが、その時から新島は外国人居留地で新しい友人を求めなければならなかった。塩田虎尾から福士卯之吉を紹介され、アレキサンダー・ポップ・ポーターにいた卯之吉とは意外と心が通じて親しくなった。卯之吉は父続豊次を助けて独学で英語を学び洋式船の箱館丸を完成し、辞書の作成に取り組んでいた。出入港する外国の艦船と優れた文化を知っていたので新島の密国に理解を深めて協力した。外国人居留地の波止場近くにあったアメリカのフレデリック・ウィルキーは碇泊中のベルリン号の契約者であった。卯之吉はベルリン号のウィリアム・セーボリー船長と話を進められたが、ウィルキーは強く反対した。新島七五三太が呼ばれ、6月14日夜半までにベルリン号に来ることを条件として許可された。

祭りの夜であったが、別れを告げた新島七五三太は塩田虎尾の従者に見立てポーターの近くまでくると犬に吠えられ、卯之吉が用意した波止場の小舟に乗った。途中、役人にとがめられたが、舟底に身を隠して無事にベルリン号に乗船することが出来た。

香港では、ワイルド・ドウヴァー号にのりかえるが上海に近づいた時髪を切り、太刀をベルリン号船長セーボリーにお礼にと贈り、香港ではティラー船長に小刀を売って漢



バイエリアに建つ「新島襄ブロンズ像」

訳の聖書を購入している。ティラー船長の専属ボーイに採用され、愛称“ジョー”と呼ばれていた。箱館からほぼ1年の7月20日ワイルド・ドウヴァー号はボストンに入港した。

それから3ヵ月はワイルド・ドウヴァー号で新島は孤独と不安の中で過ごしたが10月11日になって船主のA・ハーディがきて、どういう目的でアメリカに来たのか、海員ホームに移されて聞かれ「脱国の理由」を説明すると、その熱意が伝わりハーディ家に招かれた。

アルフィーアス・ハーディは牧師を志したことがあった。新島はハーディによって家族同様の待遇を受け学校もフィリップス・アカデミー（高等学校）英語科に入学、アーモスト大学に入学、同大学でB・Sの学士号が贈られ、アンドウヴァー神学校も卒業しており、ハーディを恩人として、父として崇めていた。

アメリカ滞在中の出来事は、森有礼駐米小弁務役と会ったことである。新島七五三太は密国者ではなく、米国留学免許状が授与され、岩倉使節団の一員として田中不二磨文部理事官の通訳としてヨーロッパ諸国の教育視察をしたことなどである。六カ国の視察で「理事功程」の草案を書き終えて、欧米の文化の高さは教育にあることを痛感し、教育を柱とする日本を築き上げると誓いを立てた。

明治7年（1874）31歳の時ボストンのマウント・ヴァーメン教会で按手礼を受けられ、ウットランドで開かれたアメリカン・ボード第65回年回最終日の演説で、日本にキリスト教主義の学校設立を訴えて5千ドルの寄付申込を得た。中に帰りの汽車賃まで寄付した老夫婦もいた。

新島は、10月31日サン・フランシスコを出港、11月26日夕方横浜港に帰着、29日に安中の両親と10年ぶりに対面することが出来た。そして翌年山本覚馬から京都に学校を作るように進められ、同志社英学校を開設し、女子教育のためデビス宅に女子塾を開設。その後、同志社病院、京都看病婦学校を開き、同志社大学の設立の運動をしながら明治23年（1890）1月23日に生涯を終えられた。

新島七五三太が快風丸で箱館を離れて、ボストンに向かうワイルド・ドウヴァー号で香港に停泊中の漢詩を紹介しておきたい。

英学の川勝塾で残された漢詩
一枚の破衣三尺剣



新島襄（明治17年3月撮影）41歳

征事を追懐して思い悠々
今より鵬と翼とを借り得て
歴覽五大州を遍かんと欲す

祖父辨治に励まされ、藩主安中板倉候と船主の松山板倉候の許可が出て箱館に赴くことになった元治元年3月12日夜の快風丸が品川を出港にあたって

武士の思い立田の山紅葉
錦さざればなど帰るべき

ベルリン号が箱館を出港して6日目、富士山が雲畑の彼方に隠れて見えなくなってしまった。船員の労役を経験したこともなく、英語の理解も出来なく、船客に鞭打たれてどうして堪忍できようか、部屋に戻り

函楯（箱館）を辞してより
空しく洋人に役せられる
憂国また憂国
憤然として身を思わず

ベルリン号は上海に入港し、新島は米船ワイルド・ドウヴァー号の船長に紹介され、ボストンに向かうが、香港に停泊中の漢詩

男児志を決して千里を馳す
自ら苦辛を嘗む豈家を思わんや
却って笑う春風雨を吹く夜
枕頭尚夢む故園の花

この詩は函館市大町の「新島襄海外渡航乗船之処」の碑文となっている。

“新島襄海外渡航之處” 碑について



碑の建立は昭和29年（1954）8月31日の午前1時から除幕式が行われ、宗藤大陸函館市長、大塚節治同志社大学総長をはじめ函館市関係者、同志社校友、学生など100人が参列した。

記念碑の台石は幅120cm、高さ75cmに前同志社大学学長田畑忍による“新島襄海外渡航之處”と刻んだ代理石板がはめられて、その上に幅60cm、高さ180cmの宮城県産井内石に新島襄自筆の「男児決志馳千里…」が刻まれている。この漢詩は新島が脱国してベルリン号に乗船し、香港でワイルド・ロウヴァー号に移って停泊中に「渡航日誌」に書いたものであるが、新島が帰国して明治16年の正月に浄書した墨書である。裏面には大塚総長

による新島の渡航のいきさつと同志社設立などの業績が印されている。この設置の費用は同志社と函館市が10万円を分担したものであった。

函館市の記念碑設立までの様子を見ると、函館に有識者がおられたことが要因といえる。1952年の函館市の“港まつり”に海外に脱国した新島襄が取り上げられて、同志社の校友と千歳教会牧師白川鄭二、市の有志による渡航場所となる大町の倉庫に木製の碑文が掲げられた。7月2日のことであったが、引き続いて「新島襄記念の夕べ」が7月26日に計画された。これは北海道新聞社、函館図書館、函館市公民館の共催で会場の公民館では元函館市長齋藤興一郎氏の記念講演「新島襄と私」や新島襄作詩歌朗詠、同志社在校生による校歌合唱など有意義な夜となって、この気運が函館市と同志社大学による記念碑建設運動となっていったのである。

● 会員を募集しております ●

函館文化会では「郷土の文化を顕揚し、その振興発展を図ることを目的」に活動を続けておりますが、この趣旨に賛同いただける方を募集しております。

皆さんの近くに入会いただける方がおられましたら電話、FAX、メールなどで文化会事務局にお知らせいただけませんか。「入会申込書」をお届けいたします。

● 函館文化会の助成制度について ●

函館文化会では、郷土文化振興事業の一環として郷土文化団体が函館市内において開催する講演会、展示会及び芸能発表会などに対し予算の範囲内で助成を行っております。

事業の実施前に申請を受け、審査の上助成の可否決定いたします。詳しくは、文化会事務局にお問い合わせください。

平成26年 神山茂奨励賞

箱館歴史散歩の会 中尾 仁彦氏に贈呈

函館文化会では、平成26年「神山茂奨励賞」を箱館歴史散歩の会を主宰する 中尾仁彦氏に贈呈しました。

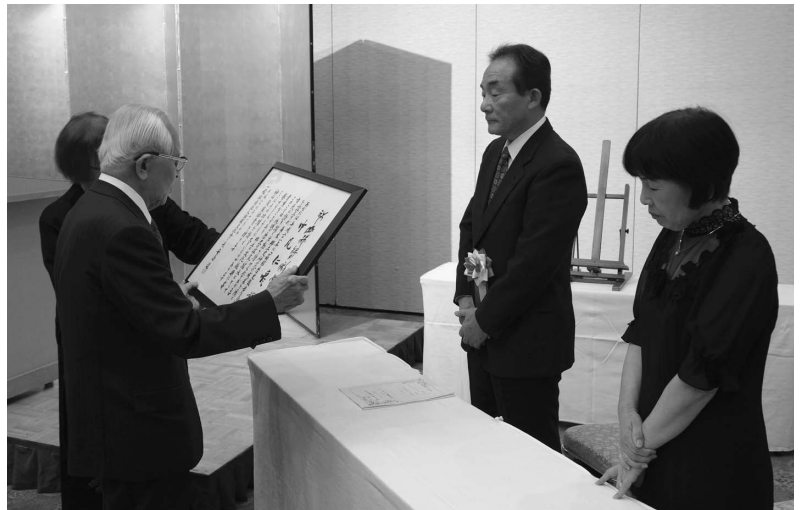
贈呈式は、故神山茂氏のご命日にあたる平成26年11月7日五島軒本店で行われ、式後中尾仁彦氏ご夫妻を囲んで祝賀会を開催しました。

「神山茂奨励賞」を受賞されました中尾仁彦氏は、平成20年4月に「箱館歴史散歩の会」を自ら設立され、爾来、主に函館西部地区を中心に名所、旧跡、文化、風土について調査をし、集積した郷土史研究の成果を現地で説明し案内するとともに、参加者に郷土への愛着心の継承も呼びかける活動を続けられてこられました。

例会の開催にあたっては毎回テーマを変えて実施をし、資料も自身で調査をしたものを理解しやすいように工夫を重ね、誰でもが気軽に参加できることから、参加者は毎回平均80名を超え、これまで137回、参加者は1万名を大きく超えております。

このように、郷土の歴史・文化を後世に伝える活動は、郷土史に対する底辺の拡大、人材育成に繋がるとともに、郷土史研究に大きな足跡を残していると評価されたものであり、これからの一層の活躍が期待されているところであります。

この度の受賞にあたって、中尾仁彦氏から「神山 茂奨励賞を受賞して」と題し玉稿をいただきましたので、紹介いたします。



「神山茂奨励賞」を受賞して

箱館歴史散歩の会 主宰 中尾 仁彦

このたび「神山 茂 奨励賞」を思いがけず受賞することができました。

これまで「箱館歴史散歩の会」に参加された多くの皆様、さらに私の活動を支えてくださった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年4月にスタートした「箱館歴史散歩の会」は、平成27年5月の第137回をもちまして活動を終わりました。「歴史は人がつくり、街も人がつくった」。そんな想いを色濃く残す函館発祥地・西部地区を中心に「再発見」をテーマにかかげ、名所、旧跡、文化、風土……と郷土の記憶を

訪ね歩いてまいりました。たくさんの方々とふれあい、学びながら、何気ない街の断片を地道につなぎ合わせて輪を広げてきた足かけ8年間です。

月2回、金曜日あるいは日曜日の午前2時間かけて、函館市民対象とし、観光をまったく意識することなく、町に暮らす人々が町の歴史・文化への理解を深め、地元への愛着をより一層持てることを願って語りかけてきました。冬季は私が郷土の歴史を、加えて専門家による医療・介護をテーマとした座学を開催してまいりました。

よく「箱館歴史散歩の会の会員数は？」と聞かれ「私だけです」と答えると、皆さんに怪訝な顔をされます。会を立ち上げた際に、申し込み不要、日時に現地集合など多くの市民が気軽に参加し、人の広がりを持たせる会を目指しました。そのため参加を制限する会員制をあえて採らなかったのです。活動を始めたのは、歴史の現場へ赴き、決して文献による学術的なストーリーに終始せず、そこに暮らした人々の息づかいを参加者自身が自分の感性で読みとって欲しかったからです。毎回80名を超えたご参加者への現地案内、テーマ、コース選定、資料収集、印刷、下見などすべて独立独歩で行ってまいりました。お陰さまで活動は口コミで広がり、その結果、参加者は延べ1万人以上になりました。

会を立ち上げたきっかけは、会社員として現役引退を考えた時、高齢社会における第2の人生の「生きがい」の必要性を感じたことです。そこで、子供の頃から興味を持っていた「函館」の歴史について、57歳から勉強を開始しました。そこに20代からの趣味としていたウォーキングをドッキングさせ活動を始めました。

「知りえた知識を独占せずに、若い人たちへぜひ伝えてください」。参加者には、毎回こう呼びかけてきました。残念ながら高校を卒業した多くの若者が就職、進学で函館を去ってしまう現状があります。それだけに函館に住んでいる間だけでも、函館をもっと知り、そして郷土に誇りを持って欲しかったのです。

時には案内する場所が重複しても、その都度テーマを変えて総テーマ数は90余。新たに見出した事象を含めた配布



(歴史散歩の途中、解説を聞く参加者)

資料は1000枚に及びました。参加者の顔ぶれはいわゆる常連様だけではなく、毎回15~20%は初めてご参加をいただく方でした。函館の歴史に興味を持つ市民がまだまだ多く潜在していることの証かもしれません。

残念ながら、研究発表は一つのテーマを論文や著作で発表することを正統とする時代が長く続いています。しかし、近年の情報革命や媒体の発達により、発表方法は多様化しています。とりわけアマチュアの発表機会は、たとえ異質であろうとも、社会との接点が増えた分だけより多くの人々に成果を伝え、受け手の心に火をつけられるようになっていくのではないのでしょうか。

町を歩くと感じます、私たちの周りから貴重な文化遺産が失われていると。このままでは函館の歴史の継続は困難となりましょう。積み重ねた歴史や文化とは、次世代へ受け継ぎ地域の活性化に反映させる未来への試金石であるべきです。

今回、活動に一区切りをつけましたが、今年いっぱいは今後への英気を養う期間にしたいと考えています。来年にはさらに気軽に参加できるよう今まで以上に敷居を低くし、西部地区にこだわらない企画を検討中です。これからも「見て、聞いて、歩いて、楽しく学ぶ」をモットーに魅力ある函館の歴史と文化を後世に伝えていく「語り部」でありたいと願っています。

今回の受賞の栄誉に恥じぬよう、今後とも町歩き、調査・研究、講演、出筆活動などさらなる研鑽に努め、地域との関わりを持ち続ける所存です。 (平成27年7月記)

函館文化会「卓話」

～総会終了後に開催しています～

函館文化会では、定時総会（5月）、臨時総会（3月）の年二度の総会で提出された議案等の審議終了後に、より会員との絆を深めようと「卓話」の時間を設けております。「卓話」は堅苦しい講義や講演にというイメージではなく、和らいだ雰囲気の中にも卓見・卓説・高遠な話を聴こうというのが趣旨で、平成20年度から始められたものです。

今年は3月の臨時総会と5月の定期総会において、次の「卓話」を行いました。それぞれ興味深い内容でしたが、紙面の制約から講師の方々にお話いただいたポイントを纏めていただきましたので、ご紹介します。

第10回卓話 人間の心理とトリック

～人はなぜ騙されるのか～

講師：阿部二郎氏

第11回卓話 願乗寺川物語

講師：木村裕俊氏

第10回卓話（平成27年3月18日）

人間の心理とトリック ～人はなぜ騙されるのか～

北海道教育大学教育学部函館校 准教授 阿部二郎



それとは逆に、「客観的・合理的な思考」を志向するあまり、「科学（狭義には自然科学）」という「未完成の知識体系」を盲信する危険性も出てきます。

こうした「陥りがちな罠」を知った上で、「感情」というものが如何に冷静で理性的（客観的・合理的）な判断を阻害する要因となるのかを認識しなければなりません。

つまり、「浅薄な感情主義」に陥らないための「的確・適正な判断力」や「判断基準となる教養（常識）」を身につける必要があるということになります。

はじめに

世の中には、「自然な状態でも様々な錯覚を引き起こす要因」や、数々の「悪意に基づく意図的なトリック」、「悪意ではないけれども、結果的に意図的なトリックと同じような被害を及ぼすできごと」などが沢山あります。

或いは、「無知」なるが故に「一方的な説明を受ける」ことになり、それによって「心理的な圧力」を感じたり、「恐怖を感じる」こともあります。そうした場合は、客観的・合理的な思考を心がける必要があります。つまり、知識の不足を「客観的・論理的思考で補う」ということです。

「錯誤」という問題

「錯誤」には様々な原因があり、多種多様な「錯誤」の事例が存在しています。

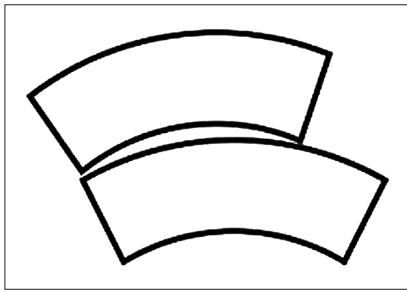
1. 悪意の下で、他者に「錯誤」を生じさせる場合。
2. 人間が勝手に「錯誤」してしまう場合の色々。
 - a. 生物学的（生理学的）な現象である場合。
 - b. 人間の心理的な作用によって引き起こされる場合。
 - c. 論理的・合理的な思考によって引き起こされる場合。
 - d. 単純に、無知であることから生じる場合。

上記1と2が複合的に関わって生じる「錯誤」もあります。

「錯誤」と「各種トリック」の関わり

世の中にある様々なトリック現象を大まかに分類すると、例えば、次のように整理できそうです。

- ① 生理現象に基づく「現象」や「錯覚」＝人間が生物あるがゆえに発生する錯視や錯覚や催眠現象→人間工学で言うところのヒューマンエラー、金縛り感覚や既視感、スポーツでのトリックプレー（視界を遮る＝ブラインド）等。



ジャストロー錯視＝本当は全く同じ大きさなのに、上の図形の方が小さく見えてしまうという「避けがたい」錯視。

<http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AD%E3%83%BC%E9%8C%AF%E8%A6%96#mode%3Ddetail%26index%3D1%26st%3D0>から引用。

- ② 心理的・精神的な原因に基づく「錯覚」や「錯誤」＝意図的・非意図的なミスディレクション原理に基づく心理コントロール、潜在的な願望や期待（＝思いこみ）に基づく「錯誤」と「錯覚」、振り込め詐欺等。これら「錯覚」や「錯誤」をカテゴリー分けすると、以下のようになりそうです。

- a. スポーツにおけるトリック＝フェイント（時間的ずれの利用）、トリックプレー（定石とは異なるプレー）
- b. 政治的なバイアス（干渉）のかかったトリック＝政府による情報統制とコントロール、マスコミによる意図的な偏向報道（世論ミスリード）
- c. 宗教的なバイアスのかかったトリック＝教祖への「ハロー効果」による心理効果、カルト集団、盲信（強い思いこみ）＝奇跡現象（多くは人為的現象）の正当化等
- d. 神秘主義（オカルト）的なバイアスのかかったトリック＝UFO（未確認飛行物体）、UMA（未確認生物）「ユリゲラーのスプーン曲げ」、心霊現象、霊魂、透視、靈感、精神感応（テレパシー）等。
- e. 肩書き、社会的ステータス、社会的信頼度のバイアスのかかったトリック＝政府の各種政策への信頼→社会保険庁の年金問題、専門家や有名人などに対するハロー効果の利用→CM・PR、宗教、詐欺（的）行為

（有名人の広告塔化）等。

- f. 科学万能主義に陥ることによって生じるトリック＝疑似科学、エセ科学、ロジックとしてのトリック（＝いまだに科学で解明できず、解明されていないことも数多い。だから霊魂は存在する等）、超能力的トリック（非科学的現象を疑似科学的説明で論理づけたように装う）。
- g. 「利益・儲け」というバイアスのかかったトリック＝得やお金に目が眩む…そんな心理につけ込む、CM・PR活動において長所・利点のみを強調、模倣品・贋作、マルチ商法、偽装販売、先物取引、不動産物件等。
- ③ エンターテインメントとしてのトリック＝手品・奇術、魔術、マジック、超能力ショー。催眠術ショー。映画や各種映像における特撮トリック。
- ④ 本来はトリックと無関係なのに、「その分野に関して無知」なるが故に「騙される（誤解する）」という現象＝各種専門分野での専門的説明に含まれる誤謬や捏造、歴史書に含まれる嘘（虚像・捏造）問題、化粧、UFO、UNA、「古代史のoh！パーツ（古代の遺物の中に、その時代はあるはずのない物が含まれて出土することがあります。なぜ含まれているのか説明がつかない遺物のことです。）」、生物の擬態や保護色等。

「騙す」側と「騙される」側の相違

昔から日本には、「騙すより騙される」という道徳的な教えがありますが、そもそも「悪意の下で騙す」側と「それに騙される」側では一体何が異なるのでしょうか？

第一に、騙す側は、常に頭をフル回転されているのに対して、騙される側は結果として「思考停止状態」に追い込まれているという違いがあります。

第二に、騙す側が「事前に周到な準備や練習を積み重ねている」のに対し、騙される側は「偶然」とか「一瞬のできごとである」と認識しているという違いがあります。

他人を「思考停止状態」に追い込む手段

では、どうすれば他人を「思考停止状態」に追い込むことができるのでしょうか？その方法には、数多くの種類があり、常に開発され続けていると言っても過言ではない状況があります。「振り込め詐欺」の新手が次々と生まれ、摘発され続けているのがその良い証拠です。

○99の真実の中に、たった1つの嘘を紛れ込ませる。＝「木の葉を隠すのは森の中」というような発想。虫や動物の擬態や保護色も同義です。

○99の嘘の中に、誰もが知っている疑いようのない大きな

真実を埋め込み、それを強調することによって全体を本物であると錯誤させる＝新聞紙の札束の一番上にだけ本物のお札を乗せて、全体を本物だと思わせる。

- 「日常生活における常識を越えた基準」を話題の対象にする＝相手の適正判断の基準を狂わす＝1億円儲けましようとか、年利50%保証などというものです。同時に、「そんなことは常識（判断基準）でしょう？」という表現ほど曖昧で怖い事ありません。「常識」という言葉ほど、具体的な内容がわかりにくい言葉もないからです。「木の葉を隠すのは森の中が良い。森がない時は、森を作れば良い。」＝木の葉1枚を隠すためだけに、まさか、わざわざ森を作ったりはしないだろう…という常識の裏をかく発想です。つまり、騙す側は「一般人の常識を越えて信じられないほどの周到な準備をする」ということです。
- 「集団心理」を利用する＝集団の総意に個人が対抗するのは、心理的にとても大きな抵抗感を感じるものである。（マルチ商法、催眠商法における勧誘の常套手段）
- トリックの味方は「感情」であり、天敵は「論理思考」です。つまり、「思考停止」さえしなければ「騙されにくくなる」ということですから、騙す側は「感情」を刺激し、「論理的思考」を停止させればよいのです。「論理的思考を妨げる感情」の1つが、「我が身かわいさ、保身。世間体」です。或いは「驚き」とか「焦り」です。タイムバーゲンとか、振り込め詐欺での「孫の危機、助けを求める緊急電話」がその手段として利用されます。
- 適正な判断ができないように、与える情報量と時系列要素をコントロールする＝情報の細分化や、時系列を崩した情報の提供をすれば論理的思考が難しくなります。
- 人間の注意力の散漫さ、記憶力の不確かさを利用する＝選択盲とか変化盲と呼ばれる、人間の注意力と記憶力の限界を利用する方法です。
- 常識を逆手に取って「錯誤」を誘発する＝例えば「写真が動かぬ証拠＝真実を写す手段」という常識を利用し、「写真を加工して捏造画像を作り出す。」＝心霊写真やUFO写真
- 大きく目立つ出来事で注意をそらし、適正な判断ができないように誘導する＝誤誘導（ミスディレクション）ともいいます。国内の政治問題から注目を逸らせるために外交問題を強調するのは、古今東西の為政者が執ってきた手段です。「大きな動作が小さな動作を隠す」という言い方もできますし、「注射の痛さを誤魔化すため別な部位を強くつねる」という事例を挙げることもできます。
- 先入観を利用して感情をコントロールし、感覚を狂わせ

ることによって「論理的思考」を妨害する。例えば、多義図形や孫を装った振り込め詐欺等。



（多義図形1）

子供にはイルカの群れに見えますが、大人には…。

<http://blog.livedoor.jp/kazy8913/archives/2007-03-28.html>から引用



（多義図形2）

老婆と若い女性（2つのパターン）

<http://kg.kanazawa-gu.ac.jp/kokusaibunka/?p=5320>から引用

ま と め

「新たな騙しの手法」が日々開発されています。人間が感情を持った生物である以上は、「騙される（＝錯誤する）のは不可避である」ということをしっかり認識したいものです。「私は、冷静で理性的だし、論理的な思考や適正な判断ができるから絶対に騙されたりはしない。」とか、「これまでのキャリアでは、日々適正な判断を求められてきたし的確に実践してきた。だから絶対に騙されるようなことはない。」と自信を持って言い切る人がいます。けれども、その発想自体が「実は論理的ではない」わけであり、現代社会の実情を踏まえた上での「適正・的確なものとは言えない」ということを肝に銘じたいものです。

あ と が き

この度、一般社団法人函館文化会の卓話を担当させて頂く機会を与えて頂きました。「人はなぜ騙されるのか」をテーマとして、いくつかの実演を踏まえつつ「騙す＝騙される」という行為・現象を様々な角度から皆様と一緒に考え、共に楽しませて頂きました。

願乗寺川物語

郷土史研究家 木村裕俊



1. はじめに

『願乗寺川物語』というテーマで「卓話」を行ってみたいか、とのお話を函館文化会から頂いた時、私は『はこだてを作った人たち、願乗寺川物語』という歴史読本の原稿を書いていた。なんとというタイミングの良さなのだろうかと思いつつも、お引き受けしたのです。というのは「願乗寺川」についてここ何年か少しずつ調べて分かったのは、函館という街が大きく飛躍・発展するためのきっかけとして、なくてはならない川だったからでした。そして「願乗寺川」を通して「はこだて」の街づくりに情熱を傾けた人たちの活躍を、もっと多くの人に分かってもらいたいと考えていた矢先だったからでした。

幕末になって箱館は国際港として開港し、大きく発展することとなります。特に明治に入ってから人口が爆発的に増加し、大函館への道を進むこととなります。このきっかけを作ったのが「願乗寺川」だったのです。残念ながら、「願乗寺川」は川が作られて30年ほど経った明治22年(1889)に、現在の「新川」に切り替えられてしまいました。この30年間で人口が増えすぎて、予想外に川が汚れてしまったからでした。

「願乗寺川」という川は、僧の堀川乗経という人が計画し、土木技術者の松川弁之助という人が協力してわずか7ヶ月で完成させてしまいました。およそ川の工事とは縁のない僧侶がなぜ川を造ろうと考えたのか興味を覚えます。私たちが今住んでいる「函館」の街の原形が、この人たちによって造られたことに思いをはせつつ、『願乗寺川物語』の概要を見ていきたいと思えます。

2. はこだての発展と水事情

19世紀初頭に幕府は蝦夷地を直轄化し、その中心地を箱館に決めました。この頃の箱館は「ウスケシ」とも呼ばれ、箱館湾奥側の西部地区に限られたごく小さな地域の街でした。人々は「箱館山」に寄り添って生活していましたが、生活のための飲料水を手に入れるのが大変でした。かつて海底火山であった箱館山ではわずかな水しか入手出来ず、陸地との間の砂州で繋がった地域では水を手に入れることすら困難な状態でした。

安政元年(1859)に「日米和親条約」が結ばれて箱館は国際港となり、街は東北側に発展しようとしませんが、大きな砂漠のような地形に阻まれて飲料水は手に入らず、人々は大いに困窮していました。商家などでは水の出の悪い深井戸を掘ったり、対岸の亀田川河口から船で水を運んだりしていたのです。

享和2年(1802)、現在の元町公園の辺りに箱館奉行所が建てられ井戸を掘りましたが、わずかな水しか出ないため富山元十郎という人が箱館山に泉を求めました。これを「富山の泉」といいましたが、この場合でも、それ程多い水量ではありませんでした。このように箱館という街は、常に水不足に悩まされ続けた街であったのです。

3. 堀川乗経師の闘いと街づくり

「願乗寺」というのは、元々は青森県下北半島の川内村という所のあった寺でした。堀川乗経師はその次男であった事もあり、十代半ばにはあちこち修行に出ていました。東北各地を巡り、江戸築地本願寺や京都本山にも修行に回っていたようです。ある時期から蝦夷地にも渡るようになり、箱館・小樽を中心に調査をしていました。「願乗寺」の宗派は、浄土真宗本願寺派(通称・西本願寺派)でしたが、当時の松前藩では東本願寺派の布教だけが許可され、西本願寺派は許されていませんでした。

乗経師は本山に働きかけて蝦夷地での開教の許可を取り付けますが、創設までには多くの苦労がありました。何度も本山と幕府の寺社奉行、現地を奔走しました。この時期彼に味方したのは、蝦夷地が二回目の幕府直轄時代になったことと、本州からやって来た同じ宗派の多くの人たちが彼の開教を待ち望んだことでした。蝦夷地での寺院建立の

許可が幕府に移り、ようやく箱館と小樽に「願乗寺休泊所・出張所」を作ることが出来たのです。

乗経師は新しい街、箱館の街づくりにも大きな興味を持っていました。箱館奉行所が推し進めていた北方開拓事業による箱館の街の開発と発展、亀田川の治水工事など、乗経師にとってはどれも箱館の街づくりには欠かせないものでした。もちろん本業の布教拡大にも取り組んでいました。そしてそのすべてを、ほぼ同時期に行なっていたのです。

安政2年（1855）に蝦夷地が二度目の幕府直轄地となり、箱館と小樽に寺宇を建設したのが安政4（1857）年、北陸地方から信者を募って300人規模の入植を行ったのが安政5年（1858）でした。そして安政6年（1859）には、いよいよ亀田川の付け替え工事を行いました。まさに嵐の中の行軍のような勢いで、休む暇など無かったのではないのでしょうか。この頃の乗経師は、まだ30代半ばだったのです。

国際開港場となった箱館の街は人口が増え続け、人々は北側の砂漠地帯へと膨らんでいったため、箱館の水不足はいよいよ深刻となってきました。一方、亀田川の毎年の氾濫が亀田村の農民を苦しめていることにも乗経師は心を痛めておりました。この川の流れをせき止めて箱館の市街にその流れの一部を変えてやれば街に飲料水が得られ、かつ亀田村の農民が水害の難から救われると思いつき、この事業を決意したのでした。

この時から乗経師は亀田村へ何度も足を運んで川の流れの付け替え方法を考え、農民には川を付け替えると氾濫は少なくなると説明を繰り返しました。箱館の街でも地域の住民には川が通ると水が自由に手に入り、やがて賑やかな街になると説得しました。この計画を進めるため箱館奉行所へ相談に行き、そこで乗経師は松川弁之助という人に会ったのです。彼は五稜郭を手掛けた優秀な土木技術者です。この出会いも乗経師の縁なのでしょう。

京都本山には箱館の街が大きく発展すれば、将来は蝦夷地に信者が必ず増えてくると説得して工事資金を調達したのでした。こうして始まった工事は、驚くようなスピードで進められました。安政6年（1859）の5月に着手し、その年の11月には「願乗寺川」に通水することが出来たといわれています。乗経師が計画した河川工事のおかげで、箱館は大きく開けていくこととなりました。川の水を得て地域住民はこれを機会に増加することとなり、砂漠のような土地も大きく開けて人口密集地となっていったのでした。

堀川乗経師はこうした活動の他にも日常的に寺務を進め、東蝦夷や西蝦夷に寺を新設しては願乗寺の僧を派遣していききました。また、願乗寺に隣接して生活困窮者を助ける「貧窮院」を設立したり、蝦夷地転入者が困らないように



（明治9年頃の願乗寺川と函館山）

仮設住宅を建てたりしていました。誠に堀川乗経師の生涯とは、立ち止まることなく前向きに走り続けた一生でした。乗経師は明治11（1878）年に江差で新しい寺の準備中に突然倒れます。享年54歳でした。

4. 街の発展と川の汚濁

願乗寺川が出来て箱館の街もやがて人家が増え、街の北側に広がる砂漠地帯にも家並みが出来るようになり、徐々に街の形が整ってきました。しかしはじめのうちはきれいな水が絶え間なく流れていた「願乗寺川」でしたが、両側に人家が密集してくるとどうしても川の水が汚れるようになり、飲料水として適さなくなってきました。

明治も10年を過ぎる頃には、困った問題が起こるようになってきました。伝染病が発生し、多くの病人を出すようになったことです。明治19年（1886）には800人以上の死者が発生するという大惨事が起こったのです。こうしたことから「願乗寺川」を大森浜に抜ける「新川」に切り替え、旧河川を埋め立てて上水道を通すこととしたのです。

5. 願乗寺川の残したもの

函館は火事の多い街で何度も大火を経験し、そのたびに区画整理を行われ街の形が変わりました。そして今日では「願乗寺川」の跡形さえも分からなくなってしまいました。願乗寺川が今日の函館を作る大きな役割を果たしたことについてはすでに触れました。そのことと同時に「願乗寺川」に携わった堀川乗経師や松川弁之助たちから共通して見えてくるのは、この人たちは街作りの行動の中で自分への見返りを全く求めませんでした。この人たちの生き方はとても清廉潔白で、徹底して市民のために行動していたのです。『願乗寺川物語』とは、こういう人たちの物語なのです。「願乗寺川」という人工の施設そのものは今に残りませんでしたが、この函館の街に残した彼らの「心のあとかた」とか「生きる方向性」といったようなものを、この物語から感じ取って頂くことが出来れば幸いだと思います。

平成26年度 函館文化会 事業報告及び収支決算

去る 5月26日に開催されました平成27年度定時総会において、平成26年度函館文化会事業報告および収支決算が承認されましたが、その内容についてお知らせいたします。なお、事業報告、収支決算等についてお問い合わせおよび函館文化会に対するご意見、ご要望がありましたら事務局にお寄せください。

平成26年度 函館文化会事業報告

1 郷土史研究者奨励事業の実施

(1) 「神山茂賞」の贈呈

- ・日 時 11月7日(金) 午前11時
- ・会 場 五島軒 本店
- ・贈呈者 神山茂奨励賞 中尾仁彦氏
(贈呈式後、受賞者を囲んで祝賀会を開催)

(2) 講演会の開催 (函館市中央図書館共催)

- ・日 時 10月18日(土) 午後1時30分
- ・会 場 函館市中央図書館 視聴覚ホール
- ・演 題 新島襄と函館
- ・講 師 新島襄とパトスの会代表
千代肇氏

(3) 会報の発行

「会報76号」を平成26年10月1日発行

2 郷土文化振興事業への協力・助成

(1) 後援事業

- * 『東京－函館 二つの街を朗読でつなぐ』
- * 第59回北海道奎星書道展覧会
- * 第12回青春海峽文学賞
- * 市民舞台芸術奨励事業 一般公演「師籍40周年記念 若柳英美代 舞踊公演」
- * リサイタル素踊り「扇藤の会」
- * 函館朗読紀行 Vol. -8-2014-「道南を詠む」
- * 中村朝山傘寿記念展並びに第43回潮玄書道会選抜展
- * シンポジウム「女性による国際化～函館の未来を語る」
- * 講演と朗読でひも解く『方丈記』
～いにしえから学ぶ～
- * 第91回赤光社公募美術展

以上 10事業

(2) 協賛・助成事業

- * 第59回北海道奎星書道展覧会
- * 平成26年度函館野外劇の会
- * 第12回青春海峽文学賞
- * 市民芸術奨励事業 一般公演「師籍40周年記念 若柳英美代 舞踊公演」
- * 函館朗読紀行 Vol. -8-2014-「道南を詠む」
- * 函館市民憲章運動推進事業
- * 第91回記念「赤光社公募美術展」

以上 7事業

3 会 議

○ 総 会

(1) 平成26年度定時総会

5月28日(水) 於：五島軒本店

出席状況：会員総数 84名

出席会員 68名 (うち委任状提出 32名)

(議 題)

ア 議 案

- * 平成25年度事業報告について 承認
- * 平成25年度収支決算について 承認
- * 役員(理事・監事)の選任について 選任

イ 報 告

- * 「平成26年度講演会」について 了承
- ウ 卓 話 (総会議案審議終了後)

- ・演 題 読書会から朗読奉仕会へと成長して40年

～平成25年度優良読書グループ全国表彰を受賞して～

- ・講 師 函館朗読奉仕会会長

船矢美幸氏

(2) 臨時総会

3月18日(水) 於：ロワジュールホテル函館

出席状況：会員総数 89名

出席会員 76名 (うち委任状提出 41名)

- (議 題)
- ア 議 案
- *平成27年度事業計画について 承 認
 - *平成27年度収支予算について 承 認
- イ 報 告
- *今後の日程について 了 承
- ウ 卓 話 (総会議案審議終了後)
- ・演 題 人間の心理とトリック
～人間はなぜ騙されるのか、その心理を探る～
 - ・講 師 北海道教育大学函館校 准教授
阿 部 二 郎 氏
- 理 事 会
- (1) 第1回理事会 5月28日(水) 於：五島軒 本店
- (議 題)
- ア 協議事項
- *平成26年度定時総会提出議案について 承 認
 - *会員の異動 (加入・退会) について 承 認
 - *今後の日程について 承 認
- (2) 第2回理事会 6月2日(月) 於：函館文化会
- (議 題)
- ア 協議事項
- *会長・副会長・常務理事の互選について 互 選
- (3) 第3回理事会 9月24日(水) 於：五島軒本店
- (議 題)
- ア 協議事項
- *平成26年「神山茂賞」について 承 認
- イ 報 告
- *「函館文化会講演会」について 了 承
 - *定款第23条第5項の規定に基づく報告について (会長、副会長、常務理事の職務執行状況の報告) 了 承
 - *会員の異動 (退会) について 了 承
 - *今後の日程について 了 承
- (4) 第4回理事会 1月22日(水) 於：ロワジュールホテル函館
- (議 題)
- ア 報 告
- *平成26年度事業実施状況について 了 承
- *平成26年度予算執行状況について 了 承
- *「卓話」の開催について 了 承
- イ 協議事項
- *平成27年度実施事業について 承 認
 - *今後の日程について 承 認
 - *会員の異動 (入会) について 承 認
- (5) 第5回理事会 3月18日(水)
- 於：ロワジュールホテル函館
- ア 協議事項
- *平成26年度臨時総会提出議案について 承 認
 - *会員の異動 (入会・退会) について 承 認
- イ 報 告
- *定款第23条第5項の規定に基づく報告について (会長、副会長、常務理事の職務執行状況報告) 了 承
- 諸 会 議
- (1) 神山茂賞選考委員会
- 平成26年度受賞候補者として2名の推薦があり、8月7日(水)及び9月3日(水)に選考委員会を開催、選考の結果「中尾 仁彦氏」を神山茂奨励賞受賞候補者として答申することとした。
- (2) 企画委員会
- 函館文化会が実施する事業の企画・立案に携わるとともに、その開催・運営にあたっている。本年度の委員会の開催日数はこれまで5回で、主なる実施・担当した事業は次のとおりである。
- ・文化講演会の開催協議及び運営
 - ・「卓話」の講師の選任及び運営
 - ・「後援名義使用申請」及び「助成金交付申請」の審査

平成26年度 函館文化会収支計算書

平成 26 年度 収 支 計 算 書

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
基本財産運用収入	5,008,000	4,908,300	△ 99,700	
会 費 収 入	180,000	162,000	△ 18,000	
事 業 収 入	12,000	12,000	0	
寄 付 金 収 入	1,000	0	△ 1,000	
雑 収 入	12,000	12,876	876	
事業活動収入計	5,213,000	5,095,176	△ 117,824	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	3,795,000	3,798,764	△ 3,764	
①文化振興事業	2,805,000	2,756,078	48,922	
事務手当	1,374,000	1,374,000	0	
顕 彰 費	100,000	50,000	50,000	
会 議 費	400,000	467,413	△ 67,413	
旅費交通費	220,000	235,060	△ 15,060	
通信運搬費	60,000	96,394	△ 36,394	
什器備品費	10,000	0	10,000	
消耗品費	20,000	15,640	4,360	
修理修繕費	10,000	0	10,000	
印刷製本費	250,000	178,200	71,800	
委 託 料	30,000	0	30,000	
賃 借 料	100,000	86,940	13,060	
諸 謝 金	80,000	47,889	32,111	
広 告 料	1,000	0	1,000	
助 成 金	100,000	95,000	5,000	
雑 費	50,000	109,542	△ 59,542	
②土地賃貸事業	990,000	1,042,686	△ 52,686	
事務手当	225,000	225,000	0	
通信運搬費	5,000	1,504	3,496	
租 税 公 課	690,000	751,900	△ 61,900	
振替手数料	60,000	62,250	△ 2,250	
雑 費	10,000	2,032	7,968	
(2) 管理費支出	1,418,000	1,540,433	△ 122,433	
事務手当	621,000	621,000	0	
会 議 費	50,000	62,395	△ 12,395	
旅費交通費	100,000	131,100	△ 31,100	
通信運搬費	100,000	158,239	△ 58,239	
什器備品費	10,000	0	10,000	
消耗品費	20,000	10,678	9,322	
修理修繕費	10,000	0	10,000	
印刷製本費	15,000	28,998	△ 13,998	
委 託 料	180,000	190,399	△ 10,399	
賃 借 料	60,000	60,000	0	

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
租 税 公 課	100,000	99,900	100	
負 担 金	60,000	30,000	30,000	
雑 費	92,000	147,724	△ 55,724	
事業活動支出計	5,213,000	5,339,197	△ 126,197	
事業活動収支差額	0	△ 244,021	△ 244,021	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定預金取崩収入				
神山茂顕彰積立金取崩収入	200,000	150,000	50,000	
郷土資料等整備積立金取崩収入	100,000	100,000	0	
特定預金借受収入				
郷土資料等整備積立金借受収入	300,000	600,000	△ 300,000	
投資活動収入計	600,000	850,000	△ 250,000	
2 投資活動支出				
特定預金返済支出				
郷土資料等整備積立金返済支出	300,000	600,000	△ 300,000	
投資活動支出計	300,000	600,000	△ 300,000	
投資活動収支差額	300,000	250,000	50,000	
III 予備費支出	50,000	0	50,000	
当期収支差額	250,000	5,979	244,021	
前期繰越収支差額	147,747	212,568	△ 64,821	
次期繰越収支差額	397,747	218,547	179,200	

〈注記事項〉

- ・借入金限度額 0円
- ・債務負担額 0円
- ・特定活動収支の部

特定預金取崩収入は、次のとおりである。

「神山茂顕彰積立金取崩収入」は、「同積立金のうち 150,000円」を取崩し、「事業活動収支の部事業活動支出 事業費支出 文化振興事業 顕彰費に 50,000円、贈呈式関係経費に 100,000円」に「郷土資料等整備積立金取崩収入」は、「同積立金のうち 100,000円」を取崩し 会報発行等経費に充てたものである。

一般社団法人 函館文化会 会員

(平成27年10月1日現在)

(ア)	(カ)	(ス)	(ナ)	(マ)
東 伸 江 厚 谷 享 子	葛 西 善一郎 梶 原 佑 倅 金 山 正 智 叶 邦 武	末 永 玲 子 菅 野 剛 造 杉 崎 清二郎 澄 信 一	中 野 達 弥 中 村 朝 山	松 本 昭 一 松 谷 勇 競 丸 藤 競
(イ)	(キ)	(セ)	(ニ)	(ミ)
池 上 信 廣 池 見 厚 一 石 井 直 樹	北 原 善 通 杵 屋 勝幸恵 木 村 裕 俊	関 口 昭 平	西 澤 勝 郎 丹 羽 秀 人	三 浦 稔 昌 宮 崎 昌
(ウ)	(ク)	(タ)	(ネ)	(ム)
上 田 昌 昭	小 林 明 小 林 裕 幸 駒 井 惇 助 今 千 尋	田井中 和 子 平 昭 世 高 市 一 男 高 市 道 也 太刀川 善 一 辰 村 和 子 谷 村 誠 田 村 志 朗	根 津 静 江	向 出 清 治 棟 方 次 郎 村 上 英 彦
(エ)	(コ)	(チ)	(ノ)	(ヤ)
繪 面 和 子 遠 藤 正 夫	小 林 明 小 林 裕 幸 駒 井 惇 助 今 千 尋	千 葉 軒 岳	信 田 利 之 野 又 肇	安 島 進 山 田 涼 子 山 那 順 一
(オ)	(サ)	(ツ)	(ハ)	(ヨ)
大 島 安 長 大 瀧 俊 征 近 江 茂 樹 近 江 幸 雄 岡 田 弘 子 岡 村 匡 小笠原 金 哉 小笠原 孝 小笠原 愈 冲 野 信 治 小山内 武 弘 落 合 良 治 小野沢 猛 史 小 原 幸 男	齋 藤 幸 子 櫻 井 健 治 佐々木 馨 克 佐々木 俊 克 佐 藤 公 郎 佐 野 史 人 澤 田 三 尾 澤 田 美 千	土 家 康 宏 坪 山 元 彦	橋 田 恭 一 原 眞 人	吉 田 恵 悦
		(ト)	(ヒ)	(ワ)
		富 田 秀 嗣	平 野 利 明 平 原 康 宏	若 柳 英美代 若 山 直 渡 邊 兼 一 渡 利 正 義
			(フ)	(以上91名)
			藤 井 正 三 藤 井 方 雄 藤 井 良 江 札 内 征 男 船 矢 美 幸 古 野 柳 太郎	

一般社団法人 函館文化会 役員

(平成27年10月1日現在)

○ 顧 問	高 田 竹 人	○ 理 事	小笠原 愈 小 原 幸 男	○ 理 事	田 村 志 朗 平 原 康 宏
○ 会 長	安 島 進		金 山 正 智		三 浦 稔 昌
○ 副 会 長	池 見 厚 一		櫻 井 健 治		若 山 直
○ 常 務 理 事	叶 邦 武		平 昭 世	○ 監 事	冲 野 信 治
○ 理 事	池 上 信 廣		辰 村 和 子		向 出 清 治